No 9

企画設定書

タイムボカンシリーズ　PART Ⅳ

オタスケマン

企画・竜の子プロ企画室

あの赤ヘル軍団も真っ青

いよいよ史上最笑の四番バッター登場!!

その名は——『オタスケマン』

今週のメインエベント時間無制限一本勝負

オタスケマン　VS　オジャママン

抱腹絶倒、珍奇無類、吃驚仰天……時間旅行

『オタスケマン』は……

ギャグのコンバット・マーチです!!

原作　竜の子プロ企画室

企画　柳川茂
宮田知行

ジャンル　タイムマシンギャグアニメ

形式　週一回　三十分
一話完結シリーズ作品

時間帯　毎土曜　午後六時半〜七時

対象　幼児より大人迄

（企画意図と狙い）

"タイムボカンシリーズ" 第四弾『オタスケマン』―― いよいよ登場です。
第一作の「タイムボカン」（50年10月スタート）より「ヤッターマン」「ゼンダマン」と丸四年余にわたり高視聴率を堅持してきた、このシリーズの決定版の制作こそ『オタスケマン』における使命であり、また意図&狙いそのものなのです。
『オタスケマン』は笑撃的なマンネリはともかく怠惰な非創造性に満ちたマンネリをおそれます。
そこで、三つの大きな新設定を用意しました。
その一つは、従来、善玉トリオとの色分けで当初から彼らの意志に反して、悪の代表、ギャグメーカー、三枚目として起用した悪玉トリオと今回正式のタイムパトロール隊員としての専属契約を締結したことです。
といっても、悪玉が善玉に変身する訳ではありません。彼らの悪を好み、ドジを重な、敗北にまみれる設定は従来通りです。ただ、善玉トリオと同じタイムパトロ

ール局長官直属の隊員としての身分を保証し、彼らにも任務を立派に遂行すれば、ヒーロー、ヒロインにもなれるチャンスを与えたのです。
ところが、性悪説の権化である三人はまたも悪に染まり、善玉トリオの足を引っ張り、悪の歴史におけるヒロイン、ヒーローをめざしてしまう訳です。嗚呼!!
また、タイムトラベルの目的を従来のモノ（ダイナモンド&木江田博士、ドクロストン、命のもと）捜しから一変し、歴史上の事実を歪曲しようとする悪の目的と、それを阻止しようとする善の目的とのぶつかり合いに終始させていきます。
この目的の変更により、素材（歴史上の人物や史実）選択の工夫とゲストキャラとのより密着した物語展開、そして、興味深い歴史への誘い……が可能になるのです。
更に、登場メカもこれまでの三作品に比べ、レギュラーメカを善玉側七体（母船一、機能別六）、悪玉側一体（母船プラス毎週戦闘メカ一体ずつ）とバラエティーに富ませ、縦横に活躍させます。
以上三点の新設定の徹底により、必要悪のマンネリのアカを落し、シリーズにフ

レッシュさを横溢させていくのです。

『オタスケマン』――いよいよ満を持して、二月から新登場です。

（設定とストーリーパターン）

世界史の一ページに燦然と輝く世紀の美女、科学者、英雄になりたい！　その限りない執念に燃えて、アクダマトリオが新登場。

アターシャ、セコビッチ、ドワルスキーと名前もかえ、はりきることしきりである。

仕事は何と歴史を守るタイムパトロール員。正義の隊員、ヒカル、ナナ、ズッコケロボットのヒネボットと共に様々な時代にタイムトラベルして、歴史の流れを正しい方向に導くのだ。

だが、それも表面上だけのこと。裏では自分が記した世界史とすべて史実を同じように歪曲しようと企む正体不明のトンマノマントと手を結び、歴史の中で暗躍していた。それを阻むべく登場するのが同じ隊員のヒカルとナナが変身したオタスケマンである。

アターシャたちは負けじとオジャママンに変身して、ファイト満々ぶつかって行

く――。

なお、ストーリー・パターンを表にすると……、

（パターン表）

①
トンマノマント（ボス）
部下（オジャママン）
に命令

② ヒネボット

傍受

※ トンマノマントは宇宙のどこかから指令を発信する

③
タイムパトロール局
東南長官

※ タイムパトロール局は地球を回る宇宙ステーション内にある

情報　指令

（タイムパトロール隊員）

≪善≫
- ヒカル
- ナナ
- ヒネボット

≪悪≫
- アターシヤ
- セコビッチ
- ドワルスキー

④ タイムトラベル

※ 宇宙ステーションの軌道を目標の時代の軌道に修正してタイムトラベル

⑤
（変身）
善　オタスケマン　　悪　オジャママン

事件　解決

⑥
メカアクション

帰る

⑦
（隊員姿に戻って）
ヒカルたち………　勲章授与
アターシヤたち……　愛の特訓
← 東南長官

① トンマノマントが自分で書いたボロボロの本『トンマノマントの歴史・これが真実だ』のページをめくり、ある史実を選び、その歪曲をタイムパトロール局内のアターシャたちに指令発信する。

② ヒネボット、トンマノマントの指令をタイムパトロール局内で傍受する。

③ 東南長官はヒネボットの報告を受け、ヒカル達とアターシャ達に出動を命じる。

④ 宇宙ステーションの軌道を目標の時代の軌道に修正してタイムトラベル。
だが、セコビッチがメカに細工をしていたため、ヒカル達は途中で立往生。
その間に、アターシャ達は先行、オジャママンに変身する。

⑤ オジャママン、歴史上の人物やでき事に接触して、歴史上の真実をかえようとする。

だが、変身したオタスケマンに邪魔されてしまう。

⑥ メカアクション。オタスケマンの勝利。

⑦ ヒカルたち東南長官から勲章を授与される。
一方、アターシャたちは、ズタボロになって帰還するや、東南長官から愛の特訓を受ける。

＜登場キャラクター＞

ヒカル（十五才）

タイムパトロール隊員。
明るく、ナウな感覚を持ち、スポーツ好きな現代っ子。
三枚目的な面もある。
歴史を守るのが任務で、ここ一番と云う時、オタスケマン1号となり、オジャママンたちを颯爽とこらしめる。

ナナ（十三才）

タイムパトロール隊員。
何事にももののおじしない明るく気丈な娘。
ヒカルのガールフレンドで、「ヒカル」「ナナ」と呼び合う。
ヒカルと共にオタスケマン2号となり、活躍する。

ヒネボット

タイムパトロール船（タイムマシン）サンデースター号の操縦士兼メカメンテナス及び、お茶くみロボット。

又、歴史、史実をインプットされたデータロボでもあり、云わばヒカル達の水先案内人である。従来のような子供っぽいロボットではない。

自分では、博学を気取っているが、どこか狂っている。

トンマノマントからの謎の通信をその頭部の受信コンピューターで傍受し、東南長官にいつも報告する。

傍受の際には奇妙なポーズをとる。

ヒカル、ナナの良き仲間である。

アターシャ（三十三才）

タイムパトロール隊員。

マージョ、ドロンジョ、ムージョの流れを引く美女&悪女だが、今回は美

女願望に加えて結婚願望が強く、いつも〝心の人〟と称して正体不明の男の写真を取り出しては、「あたしには待っててくれる人がいる」などと可愛いことを云う。

部下のセコビッチ、ドワルスキーはその〝心の人〟は自分だと各々錯覚している。

正体不明のトンマノマントの指令を受け、その書き上げた歴史書通りの世界史を実現させる為、タイムパトロール隊員でありながら、オジャママン1号に変身し、オタスケマンたちの足を引っぱり、又、悪事を働く。

そのユメは歴史に最高の美女と記されることである。

セコビッチ（二十九才）

タイムパトロール隊員。

その実体はオジャママン2号。

グロッキー、ボヤッキー、トボッケーを踏襲し、かつ、セコさが加わった

性格。ユメは史上一の大科学者。アインシュタインなど目じゃない。
タイムパトロール船、アンドロメダマ号の操縦及び、メカメンテナス。

ドワルスキー（三十二才）
タイムパトロール隊員。
その実体は、オジャママン3号。
ワルサー、トンズラー、ドンジューローを踏襲した力自慢で、悪辣さが一段と増した性格。ユメは史上最強の英雄。ヘラウレスなど屁の河童。

東(トン)南(ナン)長官（五〇才）
タイムパトロール局長官。
歴史を守る事に半生を捧げた名長官で寡黙でクールな男……そんな風であると本人だけが思いこんでいるが、現実は、おしゃべりでズッコケ軟弱長官。

隊員たちへ勲章を授与することが唯一の趣味。

トンマノマント　（年令不詳）

邪神かはたまたコンピューターか正体は全くの謎に包まれている。サカサマ言葉を好んで使う。

自分が書き記した『トンマノマントの歴史・これが真実だ』なる書物の歴史そのままに、世界史を歪曲することが、唯一の楽しみであり、生きる楽しみになっている。

ボロボロになった歴史書を手に、オジャママンたちを手足として使い、その代償に各々、史上もっともすぐれた美女、大科学者、そして英雄の地位を約束している。

蛇足……トンマノマントは逆から読んでもトンマノマント。

×　×　×

この物語における〝タイムパトロール隊〟とは、歴史的事実を歪曲しようと

する企みを監視し、正史を守るべく日夜努力を重ねている人々の集まりである。

〈 メカキャラクター 〉

オタスケマン側

（助っ人メカ）

オタスケサンデー号
（コウノトリ型母船）

- オタスケタヌキ（夜行メカ）
- オタスケクダサイ（耐熱メカ）
- オタスケアシカ（水兵メカ）
- オタスケウータン（ジャングルメカ）
- オタスケキンタ（チカラモチメカ）
- オタスケガエル（地底メカ）

状況により、下段の助っ人メカを毎週選定し、オジャママンを打ち破る。

オジャママン側

ハゲタカ型の母船・アンドロメダマ号より、目的地の状況に応じて新メカをくりだし、オタスケマンと闘う。

ストーリー例

「あんたってアンタッチャブル……？」

「泣くまで待てない徳川家康」

「3001年宇宙の黴（かび）」

「あんたって、アンタッチャブル……？」

勢揃いしたアターシャ、セコビッチ、ドワルスキー、ご存知オジャママンたちに、トンマノマントからの次の歴史歪曲指令が届いた。

「ＦＢＩのエリオット・ネスの魔の手から、犯罪王、アル・カポネを守れ！ アメリカは禁酒法時代だ。カポネさえ、ネスに御用にならなければ、暗黒時代は永遠に続いたのだ」

ヒネボットの傍受により、トンマノマントの計画を知った東南長官は、直ちにヒカルたちとアターシャたちを禁酒法時代へ出動させた。

例の如く、セコビッチの細工によって大きく出遅れるヒカルたち。やっと米国はシカゴに到着したものの、オジャママンに変身したアターシャ、たちの暗躍は既に開始されていた。

持ち前のお色気でネスに迫るアターシヤ。

スキャンダルの罠に陥れ、失脚を狙った作戦だ。だが、相手は名にし負うアンタ

ッチャプルの象徴、ネス、びくともしない。

「アターシャ様のお色気では、吐き気を催すぐらいが関の山ですよん。ここはぼくちゃんにおまかせを……」

セコピッチが胸を叩くのも無理はない。

最新盗聴器をなんと、大胆にもネスのソフト帽に仕掛けたのである。

見事、効を奏し、ネスたちＦＢＩのカポネの隠れ家への急襲ガサイレは失敗に終った。

もちろん、その蔭に、アターシャたちの情報通報があったのはいうまでもない。

だが、ネスもさるものひっかくもの。

盗聴器に気付いたネスは、逆にこれを利用し、ガセネタを流したのだ。

再度のガサイレは成功した……かに見えた。

しかし、オジャママンも必死だ。

メカを使って、カポネ救出に成功した……かに見えた。

ところが、ジャーン!!

ネスたちＦＢＩの危機一髪を駈けつけたオタスケマンたちが救った。
オタスケマンとオジャママンのメカ戦。
パターン通り、オタスケマンの大勝利!!
ネスたちも遂に宿敵のカポネ検挙に成功した。
タイムパトロール局に意気揚々と引き上げるヒカルたち。
その胸に栄誉の勲章が光る。
一方、アターシャたちは、東南長官の愛の特訓に青息吐息、あゝ哀れ!!

「泣くまで待てない徳川家康?!」

トンマノマントの今回の指令は日本国、戦国時代に終止符を打った徳川家康がターゲットである。家康が豊臣勢に勝たなかったら、戦乱の世は未だに終りをつげず、日本国はメタメタだったに違いないと云うものだ。

ヒネボットの傍受に依り、これを知った東南長官は早速、ヒカルたちとアターシャたちに出動命令を出した。

一千六百年の日本にタイムトラベルする両者。途中、セコビッチがサンデースター号のジュネレータを壊したため、一足遅れるオタスケマンたち。

さて、すでにオジャママンに変身して大阪城に到着したアターシャ達。

そこでは、大阪夏の陣の真最中!

外堀はすでに埋められ、今にも内堀にかからんとしていた。

ここで、家康に勝たれたら、ヒーローのユメも台無しだと一計を案じるオジャママン。

徳川方の武将になりすまし、まんまと家康の愛息、秀頼を人質にとって豊臣勢に身を投じた。

そこで現代から持って来た新聞の切り抜きで作った脅迫状を家康に！

一方、一足遅れて家康の本陣に着いたヒカルたちは「秀頼の命が欲しくば、豊臣に降伏せよ」の新聞切り抜き脅迫状から、オジャママンの仕業と知る。

早速、秀頼奪回作戦に出ようとするオタスケマンを止めたのは何と家康であった。

「大事の前の小事、秀頼とて武士のはしくれ、覚悟はできておろう」

冷たく云い放つ家康に憤慨のナナ。幼い秀頼はきっと号泣してるに違いない。

いかに武士と云えども余りにも冷たい親子の情。あわれな秀頼を救け出すべく飛びだそうとしたヒカルたちを今度は捕えてしまう家康だった。

一方、作戦失敗に怒ったオジャママン、一気にメカで徳川軍を襲った。

あわや、壊滅寸前の徳川軍の前に牢を破って現れたヒカルたち、オタスケマンに変身！

×　×　×

両メカの壮絶なるアクションの末、オタスケマンの大勝利。

すぐに秀頼救出に駆けつけるオタスケマン。

だが、秀頼は虚無僧姿の男が救けだして来た後だった。男は傷つき、その衣は救出作戦の苦難を物語るようにボロボロであった。

力つき、倒れた虚無僧 ―― それは家康その人であった……。

徳川軍のためなら鳴く迄待とう的に慎重な家康だったが、己が息子のこととなると世間並みの我が子が泣くまで放っとけない甘いパパだった。

勿論、アターシャたちを待っていたのは、東南長官の愛の特訓だったのは云うまでもない。

「３００１年宇宙の黴（かび）」

時は３００１年の未来、所はアメリカのニューヨーク。そこに、円盤に乗った宇宙人が現われ、黴まで生えて汚れに汚れたニューヨークを美しい街に変えたという。それまでのニューヨークは人口増加や公害などでパニック状態、悪がはびこるには絶好の時代だったのだ。何としても、宇宙人を追い返せ！　これがトンマノマントからオジャマママンに下された命令であった。

オジャマママンが先にニューヨークに着いてみると、街には巨大な円盤がとまり、公害除去装置で大規模な清掃作業中であった。

オジャマママンは宇宙人を宇宙に返すべく追いだしいやがらせ作戦を始める。円盤には一組の宇宙家族が乗っていた。彼らは地球のために遥かな宇宙から危険を冒してやって来たのだ。ところが、オジャマママンのいやがらせを受け、すっかり腹を立ててしまう。

「もう、地球を黴だらけにしてやる！」

父親は徽爆弾のスイッチに手をかけた。
しかし、そこで可愛い坊やがいないことに気づく。みれば、好奇心旺盛な坊や一人外にでて、摩天楼に登っているのだ。
あわや坊やが落ちるという瞬間、オタスケマンが登場、坊やを助ける。怒ったのはオジャママン。メカを繰りだして、戦いを挑んで来る。しかし、あっけない最後……。
かくして、オタスケマンの活躍で宇宙人はいったん見捨てた地球人を見直し、ニューヨークを美しい緑あふれる街にするのだった。
勲章を胸に暄めるヒカルたちの目の前で、東南長官の愛の特訓を受けるアターシャたち、もう大変!!

（ストーリー選択基準）

一、原則として、歴史上の出来事で悪側が滅んだり、失敗した場合が、対象となる。

㈷　この際悪とは、カポネ、ネロ、等コモンセンスとして悪と思えるもの。

二、発明・発見……トンマノマントの歴史書にうまくこじつけできるもの。

三、歴史的事実で、善悪の判断がつかないものは、善は悪だけを倒す。そして、正常な状態で戦わせる。

㈸　宮本武蔵と佐々木小次郎の対決など。

㈷　今回の特徴として、悪が先にスタートし、話にからむ場合が多い。善は悪が姑息な手段で、どちらかに味方した場合に颯爽と登場して悪を討つ。

四、単に、トンマノマントが企む歴史の歪曲は、史実をさかさまにすることだけで

なく、人物設定などの入れかえもある。

(例)　クレオパトラとアターシャが入れかわったり、ナポレオンの英雄行動がトンマノマントのそれだったり……